1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社 マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	令和6年11月29日	評価結果市町村受理日	令和7年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和7年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みどりの家の新たな理念「居心地の良い家～自己選択、自己決定を否定せず奪わず自発と自立を尊重する～」を軸に据え、今まで以上に自分で出来る事を奪わずに「どうすれば出来るのか」を考えて入居者が尊厳を持ち、日常生活を送れるように関わりながら、自立支援を実践出来るように努めています。レクや体操等も行いますが”日常生活を送る場としての家”である事を意識して、調理や洗濯、掃除等の日常生活を入居者が主役となって行動出来る事を心がけて実践しています。入居者様、職員の皆がユニットの垣根を越えて自由に行き来して、それぞれが助け合いながら生活を

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みどりの家の新しい理念を“生活の中で選択をして頂く支援を実践”する事により共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と一緒に回覧板を次の家に持って行ったり、ゴミ出しの際に通掛った住民の方にご挨拶することで交流をさせて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	障害者雇用の職員がいて、就労支援をしている学校と面談や交流を行っています。介護を学んでいる実習生の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にご参加頂いている方々に、当ホームでの事故やヒヤリはっと、行事報告等の報告を行い、意見を頂いています。又、他施設での取り組みや、近所での催し物の情報を頂いたりしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	障害者雇用の職員がいるので障害支援課への相談や案件相談で包括支援センターへ相談等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止委員会を開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又、研修を行い身体拘束廃止に務めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として虐待防止委員会を3か月に1度開催。全施設から担当者が集まり、委員会での内容をフロア会議で報告している。又、研修を行い虐待防止に務めている。各ユニットでそれぞれの目標を掲げ、虐待の目を摘む取り組みを行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資格取得の際や研修時に学んだが、実際に後見制度を利用されている方と関わったことがない為、機会があれば色々な話を聞いて学びたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や入居を検討されているご本人の面談の時、実際の契約時に分かり易く十分な説明を行っている。又、ホームで自立した生活を行って頂く上でのリスクをお伝えして、ご納得頂いてから契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や電話等でのやり取りの中で、ご意見やご要望を伺って反映出来る様にしている。参加頂けるご家族には運営推進会議に参加頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議での意見交換も行っているが、それ以外でも気軽に意見や提案が出来る雰囲気や関係作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と個別に話をする機会を設け、現状の把握や要望を傾聴し各々が向上心を持ち、やりがいを持ち働ける環境の整備に努めている。本部に提出する面談シートも活用して定期的に個別面談、ラインでの個別の相談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加可能な職員が、順番に本部の内部研修に参加出来るようにしている。役割や現状に合った研修には当該職員が研修を受けられるようにしている。又、資格取得も促しており、取得の際はシフトに配慮してスキルの向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	資格取得の際に知り合いになった方との交流を続けていて、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の中で、ご本人の抱えている不安や困り事や要望を傾聴し、話をすることで安心して入居して生活して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族等が困っている事や不安に思っている事や要望を伺って、ニーズに合った支援をご説明する事で、安心して入居して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に伺った話と、実際に入居された時点で必要な支援を見極められるよう努めている。必要に応じて、往診に来ているクリニックのデイケアの利用が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てを行うのでは無く、入居者様が主体となり生活を送って頂けるようにしている。職員のエプロンが解れた際に入居者様に縫って頂いたりする等、入居者様と職員の双方が協力しながら生活をする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望で定期的受診や散歩、ドライブに出かけたりして頂いている。ご家族来所時や電話等での連絡の際に近況をお伝えをしたり、ホームページへの写真掲載でご本人の状態を把握して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から親しくされていたご友人の面会や、ご家族と一緒に散歩されていた公園にご家族と散歩しに行ったりして、関係が継続できるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の要望や入居者様同士の関係を考慮して、席を調整している。 車いすを使用している入居者様の車いすを他入居者様が押してホーム内を移動する等、入居者様同士が支え合える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも、必要に応じて相談して頂ける関係性を築けるよう努めている。転居時や退去後に必要な書類作成等もやっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の意向や希望の把握に努めて、記録物への記載や会議の場で共有して支援に繋がられるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の面談時や、ご家族からこれまでの生活についての話を聞いたり、担当のケアマネやソーシャルワーカーから情報を集めて、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から、一人ひとりの現状の把握に努めて、記録への記入や話し合いの中で情報を共有している。出来そうな事があれば、安全に配慮しながら実際に行って頂き、有する能力を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意見、往診医や看護師、薬剤師や職員といった関係者の意見やアイデアを参考にして介護計画書の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様それぞれの記録に記入、業務日誌に記入して職員間で情報を共有している。支援変更を行った際の記録が分かり易くする工夫も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれのニーズに対応できるよう取り組んでいる。買い物に行きたい入居者様の同行には、購入する物に合わせた職員が同行したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のコンビニエンスストアへ出かけて、買い物や飲食を楽しんで頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期の往診に来てもらっている。往診時に薬の変更等、何かあればご家族へ連絡して情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電子記録で看護師がそれぞれの入居者様の状態を把握している。又、看護師が毎週来所して、職員と話や相談を行い、必要に応じて処置をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院の担当者やご家族と連絡を取り、往診に来てもらっているクリニックとも連携して、安心した治療を受けて早期の退院、退院後の受け入れが出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約書に重度化における指針を明示して、契約時にご説明している。 ご本人やご家族の希望を傾聴し、ホームで出来る支援を説明して方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、対応マニュアルを作成して掲示してある。 年に1度、法人で救命講習を開催しており、参加した職員が会議で報告して情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	参加可能な入居者様と、職員が参加して避難訓練を行っている。近隣の消防署から訓練用の消火器を借りて、消化訓練を行ったり、発電機を動かして使い方を学んだりして災害に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を傷つけないような言葉使い、例えば他職員に「トイレに行きます」ではなく「席を外します」等に言い換えて関わるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	更衣時にご本人に着る服を選択して頂いたり、お茶の時間の飲み物を選んだりして頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望やその時の意思に合わせて、おやつやお茶の時間をずらしたり、入浴日を変更する等して一人ひとりがその人らしく暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容の際に、ご本人の希望を聞いてカットしてもらっている。職員と洋服を買いに行き、自分で選んだ服を購入している方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせて、職員と一緒に食事作りを行っている。配膳や下膳、後片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や、食事量を入居者様それぞれに合わせている。実際に食べた食事量や水分量が直ぐに分かる様に都度記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来ない方は職員介助で口腔内の清潔保持をしている。ご本人の状態に合わせて歯ブラシではなく、口腔ケア用のスポンジを使ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を都度記入して一人ひとりの排泄の状態を確認し、必要に応じてトイレの声掛けを行うことで排泄の失敗を減らせるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体を動かす声掛けや、レクリエーションで運動をして頂いている。必要に応じて医療職へ相談し、薬による予防や対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂に入りたくないや仰る時には、時間をずらしたり、別日に変更したりしている。耳に水が入るのが嫌だから入りたくないや仰る入居者様には、耳栓をして入浴して頂く等、個々にそった支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、入床の時間はご本人の希望に合わせている。就前薬もご本人が寝たい(飲みたい)タイミングで飲んで頂いている。ご本人の希望で、フロアにあるソファで昼寝をして過ごされる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員が確認出来るようにしている。薬が変更になった際には、記録へ記入して情報共有が出来るようにしている。又、薬が飲みにくい入居者様には、医療職に相談して飲みやすい薬や、張り薬、塗り薬に変更してもらったりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人が好きな事や得意な事を活かして、入居者様と職員と一緒に家事を行う事で役割を持って生活をして頂いている。又、歌うことが好きな方には、他ユニットのレクリエーションに参加してもらって楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に近所へ買い物や散歩に出かけたりしている。デイケアへ通ったり、ご家族と定期の受診に行っている方や、入居前に散歩に行っていた公園に出かけられる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買い物へ出かけて衣類や生活用品を購入したり、ご本人の希望する物を職員が購入する事でご本人がお金を使って物を買う支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でご家族へ電話を掛けたり、ご家族からの電話を取り次いで、通話をして頂いています。ラインのビデオ通話機能を使用して、顔を見ながらの通話が出来るようにもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品で季節を感じられるようにしています。見るだけでなく、居者様と一緒に飾りつけをする事で、不快感を感じないようにしています。冬場の浴室や脱衣所は浴室暖房やヒーターを使って、脱衣時の寒さ対策を行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性や関係性を考慮した座席配置にしています。又、状況に応じその時々で自由に座席を移動して頂き、思い思いの時間を過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具をそのまま使ってもらったり、写真を飾ったりして居心地の良い居室環境を作れるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩いていても、車いすでも見える位置に居室の名前やトイレの表示をして、自分で行けるようにしている。又、給湯器やコップが見える位置に置いておき、自分で出来る方には、好きな時に好きな飲み物が飲めるようにしています。		